

# 社説

## 自然壊さぬ観光に転換を

### 知的で良質なツアーの魅力

#### エコツアー

持続可能で環境共生型観光の実践が始まっている。十一月二十八日から沖繩を

会場に始まったエコツアー。エコ先進地域の多様な取り組みを学ぶ貴重な機会だ。この際、マスツーリズムがもたらした弊害や開発で傷んだ沖繩の自然を、総点検し、自然との共生が可能な新しい観光の在り方を見つめる機会にしてほしい。

#### 地域振興への期待

今年が国連が定める「国際エコツアー年」で、大会もそれにちなんで開催されている。世界的に見ても地球温暖化や森林破壊、海洋汚染、自然海岸の喪失、ごみ問題など、われわれが住むかけがえのない地球は、まさに瀕身創壊の状態だ。もちろん、沖繩も例外ではない。自然海岸の喪失率や埋め立てによる県土面積の増加率でも、沖繩は毎年、全国で一、二位を争っている。

今年の沖繩観光は、過去最高の四百八十万人の入域客数を記録する勢いだ。観光収入も増え、四千億円を超え、県経済を支え推進する「成長のエンジン」としても確固たる地位を築いている。島しょ県沖繩にとって、自立経済の実現を図る主産業だ。

当然、観光産業に寄せるアジア諸国の期待も大きい。大会に参加したネパールの観光資源コンサルタントのリサ・チョエキヤルさんは「観光による利益を辺境の地まで広げ、貧困の軽減を図るプログラムを推進している」と報告している。

#### 高付加価値型の観光

日本エコツアー協会の愛知和男会長は「沖繩は島しょ観光の点がら見て、非常に多くの素晴らしい素材を提供してくれる地域だ」と、沖繩での開催意義を語っている。

だが、沖繩は本心に期待に感ぜられる状況にあるのだろうか。今年大会では、山原でのエコツアー「スマテルコースター」も実施された。東洋のガラパゴスとも評される山原の豊かな自然と、その魅力を満喫した参加者だが、「放置自動車や散乱するごみ問題」に、落胆の声もあったという。

「観光の在り方」を問う声が出て、沖繩も無縁ではない。

マングローブ林やツツジ、原生林、彩り豊かな島と礁や七色の海の魅力だけが、エコツアーの資源ではない。そこに住む人々の歴史や伝統、文化、そして生活そのものが「観光資源」とみるのが、エコツアーである。豊かな自然の中で育まれた文化が、放置自動車やごみの不法投棄の現実の前では、色あせてしまう。

自然、歴史、文化など地域固有の資源を生かした観光の成立。それは、豊かな自然だけでなく住む人の生活を、旅行者が体験し、文化の共有や発展を図るといふ知的で良質な、古くから新しい観光の在り方でもある。

そのエコツアーの健全な推進には、「旅行者、地域住民、観光業者、研究者、行政の五つの立場の人々の協力が、バランス良く保たれることが不可欠」(沖繩地域問題研究会「沖繩型エコツアーの試み」)である。まさに地域力の総力戦だ。沖繩の魅力で、世界を魅了するプログラムの誕生を大会に期待したい。

## エコツーリズム

# 持続可能な自然の実現へ

### 国際大会 沖縄宣言採択し閉幕

「宜野湾市の沖縄コンベンションセンターを主会場に、四日間にわたり開かれたエコツーリズム国際大会・沖縄(同実行委員会主催)が一日、沖縄宣言「未来へのメッセージ」を採択し、閉幕した。

実行委会長の稲嶺恵一

知事は「エコツーリズムは地域の自立的発展、多様性の維持に効果的な手段となり得ることが確認された。同大会を通して、エコツーリズム推進の世界的けん引役となることを自覚し、持続可能な自然と社会の実現に向けて行動する」と宣言文を読み上げた。

最終日は「二十一世紀における観光産業の社会的貢献―観光産業はエコツーリズムを避けて通れない」をテーマに総括シンポジウムが行われた。

県観光リゾート局長の宮名真盛氏は「ガイドらが職業として自立できるように、認定制度を確立したい」と強調し、「環境保全や文化の尊重などエコツーリズムの理念を



エコツーリズムを通じた社会貢献などを議論し、閉幕したエコツーリズム国際大会・沖縄。1日午後、宜野湾市の沖縄コンベンションセンター

取り入れれば、県民の観光産業に対する評価も高まるだろう」と期待した。

アジアオーバークラウドサービス社長のアンソニー・ウォン氏はフィジーやオーストラリアなど、エコツアー市場も競争激化していることを挙げ、「学生が地域の自然を通して、地理や科学などを学ぶプログラムが旅行商品として考えられる」と述べた。

日本旅行業協会(JATA)事務局長の石山醇氏は、高度経済成長に合わせて発展してきたマスツーリズムからの意識転換の必要性を指摘。持続可能な発展の概念を理解し、「旅行業界も社会や地域とともに歩まねばならない」と強調した。

コーディネーターの船山龍一JTB代表取締役会長は「沖縄も資源依存から資源共存へ変わる時期だ。住民、観光客が一緒に楽しめる観光地になってほしい」と語った。